

令和4年度 高知市食育推進会議 議事録

日時：令和4年12月6日（火）18：30～20：15

場所：総合あんしんセンター3階 大会議室

1 開会（司会：健康増進課 課長）

2 自己紹介

3 会長・副会長の選出

会長：高知学園大学 健康科学部管理栄養学科 学科長 渡邊慶子 委員

副会長：高知県栄養士会 会長 新谷美智 委員

4 議事

① 第3次高知市食育推進計画進捗状況について

資料（p4～24）を用いて事務局が説明。

【質疑応答】

〈渡邊会長〉

第3次高知市食育推進計画の進捗状況について事務局から報告がありました。

私の勤務している大学は管理栄養士養成校ですので、高知市食生活改善推進協議会さんと一緒に取り組みさせていただきましたが、高知市食生活改善推進協議会さんから何か一言ございませんでしょうか。

〈濱渦委員〉

10月17日高知学園大学で健康寿命延命プロジェクトの一環としまして、若者世代を対象としました食育に取り組みさせていただきました。

先生方には大変お世話になりました。57名の学生さんを2グループにわけ、1日かけてさせていただきました。

世代は違いますが、本当に楽しく、お互い学習できたと、大変うれしく思っております。

この、こうちし食育やるぞねっとのおかげで、そういう活動ができましたので、これからはいろいろな団体と一緒にこういう活動ができればいいと思います。

〈渡邊会長〉

ありがとうございました。

本学も3年目ですので、なかなか地域の方と一緒にいろんなことをやるということがなかったんですけども、こういう機会をいただきまして、学生も非常に有益な時間を過ごさせていただきました。

この、こうちし食育やるぞねっとに関しまして、ご意見、ご質問がありましたらお聞きしたいですが、よろしいでしょうか。

その他、情報交換の取組等について事務局からないでしょうか。

〈事務局〉

情報交換会終了後に、他の団体さんとこんなことやってみよう等、お話をされているところもありましたし、登録団体同士で何かやろうと、これから予定をたてるところもあるよう聞いております。

〈渡邊会長〉

量販店の方にも、いろいろなメニューの開発ということでご指導いただきたいというふうに思いますので、今後ともご協力よろしくお願いいたします。

<事務局>

もしよろしければ、それぞれの団体さんから、食育活動をいろいろされているかと思います。ご紹介いただければ大変助かりますが、いかがでしょうか。

<渡邊会長>

登録してる団体さんから、新しい取組やこういうことやってみたいというご意見がありましたら、お願いしたいですが、田村委員、何かございませんでしょうか。

<田村委員>

毎回のように報告してることもありますが、継続して取組をしていることがあり、基本的な活動としては毎月19日、食育の日前後に折り込みチラシを使って、バランスのとれたメニューの告知をしております。

もう3年目になろうとしてますけれど、最近では近森病院の臨床栄養部の宮島さんと一緒にメニューやレシピの提供いただいてまして、減塩メニューの提案をしてることが最近の取組になります。

また、食を扱うことを当社も基本としてますが、新入社員は食に対する知識とか、技術っていうのはすごく未熟で、食を取り扱う従業員としての基礎ができてないので、本当にその教育も含めて、費用は会社負担で、食育メニューを一緒に作っています。最近、やっぱり試食ができないっていうのが悩みでありますので、かわりに従業員が作って、従業員の感想等を売り場で掲示して、食育メニューを作ってもらえるきっかけになったらいいのと、あとは新入社員教育、若手社員の教育も含めて、今取り組んでるのがサンプルザになります。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

高知県栄養士会の新谷副会長からはないでしょうか。

先ほど、食教育のことも出ましたけれども。

<新谷副会長>

高知県栄養士会として、どこかの団体とコラボして開催するという事は、現在のところないですが、希望としましては、高知市歯科医師会さんとぜひコラボして、今後の計画を立てていければと思っていますので、歯科医師会さん、どうぞよろしく願いいたします。

② 第4次高知市食育推進計画策定について

資料（p25～28）を用いて事務局が説明。

【質疑応答】

<渡邊会長>

25ページからの、第3次食育推進基本計画、第4次食育推進基本計画の新旧対照表について、どなたかご質問ございませんでしょうか。

特に第4次食育推進基本計画に新たに追加になった部分等、ご質問があれば、お伺いしたいと思います。

では、私から1つかまいませんでしょうか。

26ページの学校給食における地場産品を活用した取組等を増やすというところで、第3次食育推進基本計画にもありましたが、国産食材を使用する割合を90%以上と目標値を掲げていますけれども、最近、国産の鶏肉が品薄で、学校給食現場が大変困っているということを聞いたんですけれども、その点の目標値につきましては、いかがでしょうか。

<事務局>

国の第3次食育推進基本計画の時には、地場産品を使用する食材数の割合が目標値となっていました。第4次食育推進基本計画では金額ベースになったということと、令和元年から、どれぐらい使用割合が上昇または維持できているかということが指標になっています。現在の地産率等につきましては、資料の24ペ

ページ目をご覧ください。学校給食につきましては、上から4つ目、学校給食で使用する食材うち、地場産物を活用する割合ということで、高知市の第3次食育推進計画では食材数ベースで把握しているところですが、2021年度につきましては、高知市の学校は食材数ベースで62.1%地場産物を活用しているということです。ここ最近の値はわからないかもしれませんが、2021年度はこれぐらい使用したと聞いております。

〈渡邊会長〉

その他、ございませんでしょうか。

〈西森委員〉

28ページですけれども、28ページの7番、食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進のところで、変わったところ、食品表示が適正化推進から理解促進に変わっていますが、なかなか食品表示はわかりにくいと思いますが、理解促進というのはどういう感じになるでしょうか。

〈事務局〉

消費者が見てそれがわかるように啓発するというようなことが該当するのではないかと思います。

〈西森委員〉

なかなか難しいことだと思いますけど、理解促進というと…例えば、量販店が食品を見て消費者の方が理解できるように説明するとか、声がけするとか、そんな感じですか？

〈事務局〉

消費者の方が、原材料の産地や栄養成分等そういう食品表示を見て、活用できるように啓発していくことになろうかと思います。

〈西森委員〉

国産品でかなり頑張ってるメーカーとか、業者さんとかいらっしゃると思うので、非常にいいことではないかと思って、見せていただきました。

〈渡邊会長〉

その他、ございませんでしょうか。三谷委員、食文化継承のところでございませんか。

〈三谷委員〉

第4次の食育推進基本計画の新しく盛り込まれているポイントが、例えば28ページ1番上ですけれども、在宅時間を活用した食育の推進であるとか、その4番目にあります「新たな日常」やデジタル化に対応する食育の推進であるとか、6番にあります、地域の多様な食文化の継承につながる食育の推進であるとか、非常に新しい感覚が盛り込まれておまして、こういうものはデジタル化をベースにすると、格段にその食育が推進されるのではないかと非常に期待をしております。

郷土料理に関してもデジタル化というのは、食文化の文化行政の中でも、ずいぶん申し上げてもいるんですけれども、なかなか進まなかったという経緯があります。食育の面から、さまざまなツールを使って、デジタル化がもしできるとなれば、1歩も2歩も前進するのではないかと、お聞きしておりました。

〈渡邊会長〉

ありがとうございます。

デジタル化と一口に言っても、なかなか難しいと思いますけれども、なにか具体的なことがありますでしょうか。

〈事務局〉

現在のところは決まっていますので、また、皆様方にご意見をいただきたいと思っております。

この後、高知市の第4次食育推進計画につきましてご説明させていただきたいと思っておりますが、デジタル化

等につきましては、国の第4次食育推進基本計画で新しく追加された項目になりますので、このところどんなふうにとりくんでいくかというのは、私たちも課題と考えております。

② 第4次高知市食育推進計画策定について

資料（p29～32）について、事務局が説明。

【質疑応答】

〈渡邊会長〉

国の第4次食育推進基本計画で、第3次食育推進基本計画から変更された点について説明がありました。それを踏まえまして、これから行う高知市第4次食育推進計画策定や、その基礎資料となるアンケート調査についての説明をしていただきました。

事務局から方向性や盛り込んだらよい内容、そして次期計画策定の資料となるアンケートに入れたらよいカテゴリーやアンケート項目について、意見いただきたいとの話がありましたが、どなたかご意見はございませんでしょうか。

では、私の方からよろしいでしょうか。

今回、アンケートはタブレットを使ったり、ウェブ上での回答ということですが、回答率というのはどれぐらいをめざしているか教えていただけますでしょうか。

〈事務局〉

前回は3歳児については半分ぐらい、児童生徒については学校に協力いただきましたので、90%以上の回収率でしたけれども、成人は40%ぐらいだったので、それよりは多くなるのを期待しておりますが、ウェブのアンケートを実施した部署に聞くと、アンケート項目が多くなるとスクロールするのもかなり大変で、ウェブでの回答率は高くないとも聞いておりますので、今回、ウェブと紙での回収を予定しております。また年齢層によっても、どちらが得意かということがあるかもしれませんので、両方で実施することを考えております。

〈渡邊会長〉

両方ですね。郵送とウェブで。

〈事務局〉

成人につきましては、その予定で計画をしております。

〈渡邊会長〉

ウェブでの回答は私も結構やるんですけども、途中でいやになったりします。できたら、回答率が高い方がよいかと思えます。

どなたかご意見ございませんでしょうか。

盛り込んだらよい内容とか。

〈田岡委員〉

31 ページのアンケート項目（4）生活習慣病の予防や改善に関する食意識や実践の④口の健康ですが、健康のために何に気を付けていますかというところで、鏡とか丁寧に歯をみがくとかってというのはなぜ小学校5年生と中学校2年生だけなんでしょうか。幼児とか、成人はなぜ聞かないのか教えてください。

〈事務局〉

この項目は小学校での取り組みを評価するための質問項目として聞いております。

もともと第1次食育推進計画の策定時に、目標値の設定で、その時の歯科医師の委員さんからのご意見で、歯肉炎になっていない率を目標にしたいとのご意見いただきまして、歯肉炎予防の取組を食育の取り組みとして、実践していこうということで評価指標にし、小学校5・6年生の歯肉炎と中学生の歯肉炎を目標値に設定して、それからずっとその数値をこの計画のよく噛むことが歯肉炎予防に繋がるということで、指標として設定しております。

そういう取り組みをやった結果、意識がどのように変わったかということで、小学校5年生と中学校2年生に聞く形で取り組んでいます。

それとあわせて、成人ではどのような実践があるのか、子供と比較するために聞いています。また、幼児に関しては、食育の計画の中では聞いておりませんが、健康づくり計画の方が、1年ずれて、アンケートを実施してありましたので、そちらの方で詳しい調査をしているデータがあるということで、ここでは聞いておりません。

〈田岡委員〉

第3次食育推進計画の15ページ 歯と健康のための取組の現状と課題に「また、口の健康を保つために「定期的に歯科受診している」割合は5年前と比較して、どの年代も高くなっており、口の健康への関心が高まっております」とかかれています。現状と課題として、こういうふうに推進計画にのせ、第4次食育推進計画にも継続してのせていくのであれば、アンケートには小学校5年生・中学校2年生だけに限らず、幼児だって、成人だって歯科健診に行くことは大事ですし、そういうものをアンケートにのせたらどうかと思います。目標値とか、前のところにあった項目に、歯科の項目が一つもないので、もしよかったら歯科受診をしているかというアンケートをとって、それに対して目標値をつけて、達成するために何をしないといけないかというのを考えていけばどうかと歯科の立場としては思いました。

〈事務局〉

成人に関しては、この質問を聞いております。

計画書の40ページを見ていただいたらと思うのですが、こちらは前回のアンケートの結果で、口の健康のために気を付けていることについて、小学生、中学生、20代、30代、40代、50代、60代、70代に聞き、その下にそれぞれの世代で定期的に歯科受診している人の割合について、5年前のアンケートと比較した数値を載せております。計画の目標値の設定まではいってないですが、文章の中にも織り込んでおります。指標がたくさんになりすぎたらということで、各カテゴリーは一つ二つずつというような形で設定をしている関係がありますが、また今後、検討していきたいと思っております。

〈渡邊会長〉

その他、ございませんでしょうか。

アンケートにいれたらよいカテゴリーとか、項目についてご意見をいただきたいと思っております。

食文化の継承及び伝承ということでいきますと、三谷委員ありませんでしょうか。農林漁業に関することでいきますと、水田委員、金井委員からありませんでしょうか。

〈田村委員〉

アンケートで気になるのは、食料品の値上げの問題です。

経済的な問題は結構根深くて、経済的に困っていると食育への関心があっても、実践できなかつたり、また、家庭環境、シングルマザーの問題というのもあると思って、もう少し経済的なところも聞いてあげるといいかなと思っていて、そこが、すべてに通じてくるようなところもあると思っております。もう少しそのあたり聞いてあげると、傾向が出てくるんじゃないかなあと思っておりますので、検討お願いいたします。

〈渡邊会長〉

新型コロナの影響もあって、物価の高騰ということも入ってきておりますけれども、その点につきましてはいかがでしょうか。

〈事務局〉

新型コロナ等、いろいろな社会情勢もあろうかと思っておりますので、また今いただきましたご意見について、検討させていただきたいと思っております。

〈渡邊会長〉

環境への配慮ということで、田村委員、水田委員、金井委員、ご意見ございませんでしょうか。

<水田委員>

このアンケートは無作為抽出ですか？また、アンケートは答えてくれた方に結果が戻るのでしょうか。

<事務局>

成人については無作為抽出になりますので、個別に結果を返すということはありませんが、計画を策定し啓発することで、返していきたいと思っております。

<水田委員>

答えてくださった方の目に触れない場合もあるということでしょうか。

<事務局>

できるだけ広く啓発をしていきたいとは思いますが、例えば、その方が引っ越しとかしてしまうと目にふれないこともあるかと思えます。

個人も特定しないので、一人一人にあなたの回答はこんなでした・・・というように返したりすることはございません。

<水田委員>

わかりました。

話がはずれるかもしれませんが、保育園の生活は毎日が食育です。

今日のおかずにはこんな野菜がはいっちゅうねえ。みんなで夏のこんな野菜を育ててみようか。かぼちゃができれば、それを絵に描いて、それを給食場に持って行って、調理してもらおうとか、離乳食も月齢だけにこだわらずに、個々の進み具合にあわせて、お家の方と話を進めていっています。

行事食・・・七草がゆだったり、おもにつきも経験をして、クリスマスパーティー、卒園パーティー、行事食も、今コロナで、みんなで食べるということが難しいところもありますが、そういうことも保育園では1年を通してやっています。

あと、子どもに人気のメニューやおやつがでたときに、保護者の方からレシピを教えて欲しいと言われた場合には、年に何度か発行しているお便りにのせたりということもしています。また、3月、卒園間近の頃になると、年長の子もたちに最後の1週間何を食べて卒園したいかリクエストを取って、リクエストメニューとして提供したりします。意外と、ハンバーグとかカレーとかグラタン、からあげとかぼっかりではなくって、キャベツと厚揚げ・豚肉のみそ炒めとかちくわの磯部揚げが美味しかったとリクエストされることがあったりします。

マスクをしているので、もぐもぐと口元を見せられないのが、保育をやっていると残念なところですよ。

毎日その日の給食を玄関に（8月以外は）展示をしています。「これ食べた」「今日こんなメニューやったがやね、美味しかった？」と親子で話を帰ってもらうということもあります。

あと、あまり聞きなれない食材、この前は四方竹が出ましたが、どうして四方竹っていうと思う？とすぐに答えを出さずに「じゃあ、これ宿題ね、おうちの人と四方竹って、どうしてそんな名前が付いたか考えてきて、わかった人は職員室に言いに来てね」とかいろいろなことを経験しながら、毎日意識をすれば食育できるのが、保育園かなとは思っています。

街路市のことも載っていましたが、昔、年長児を担任していたときに、木曜市に買い物に行きました。そしたら、1人300円しか買えないんですけども、どうしてもお父さんに栗を買って帰るといって、動かなくなった子がいました。他の子はりんごを買ったり、お母さんにお花をかったりする中で、その男の子だけはどうしてもこの栗がいると。300円しかないけど、そのネットに入った栗は1000円します。譲らなくて、もう男の子の粘りがちで、そのお店のおじさんが「わかった、300円分だけ量っちゃおう」「これが300円分」と買わせてくれました。後のものは何も買えなかったんですけど、その男の子はとっても満足して、人との関わりの中で、そこで、納得して帰ったりとか、そんなことも、振り返ると日常の中で、いろんな食育っていうところに繋がる活動があるのかなあと考えたことでした。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

子供さんを通して、保護者の方も巻き込んだ食育っていうことを実践されているということですね。

そういうところも、アンケートに、盛り込むということがありましたら、また、ご意見をいただければいいかと思います。

〈近森委員〉

資料 30 ページの共食や孤食の状況、というところですが、国の第 4 次食育推進基本計画の中に、新たに盛り込まれた、新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進というところがあって、この新たな日常、今のコロナ禍の日常ということの話になると思うんですが、現状では、家族以外の方との共食の機会とか地域での共食っていうのが望まれるところではあるんですが、なかなか実現できないと思います。また P T A という立場で出席していますが、やはり子供との食事っていうのは難しいときが随分あるのかなあと感じるところもあります。現状として、これをコロナ禍の中で、アンケートとして入れていくところに、ちょっとどうなのかなと疑問に思うところもありますが、いかがでしょうか。

〈事務局〉

ご質問いただきましたように、これは 5 年前の調査になりますので、その間に状況もすごく変わってきていると思います。今いただきました意見も参考にして、このままの質問でいいのかどうか、検討させていただきたいと思います。

〈西森委員〉

アンケート調査の部分ですけど、それこそタブレットとか、ウェブっていう集計の仕方をするということでした。小学校・中学校はタブレットですごくいいと思うんですが、成人の場合は、すごく変わってくると思います。デジタルの時代が急激にやってきましたが、ウェブでも、手紙でも回答はどちらでもよいという形でやるんですね。その場合は、大体何歳代が手紙じゃなくて、ウェブからのほうが回答率がよかったとか、そういうことも集計されるのでしょうか。

〈事務局〉

年齢層によって、ウェブと手紙とどちらからの回答が多かったかということはわかるのではないかと考えております。

〈西森委員〉

そういうことも、また発表していただけたらと思います。

〈渡邊会長〉

その他、アンケートに関してございませんでしょうか。

〈古谷委員〉

アンケートのところで、幼児の数が少ないなあ・・・と思っています。

高知市社協でも子育てサロンにお邪魔する時がありますが、そこでお母様たちの悩みというか、子供に食べさせたいから、食べる時間をどれぐらいに切り上げたらいいのかっていうことをすごく悩まれて、質問する方がいます。もちろん子供によりますが、だらだら食べていたりとか、遊びになってくると、やめたらいいのかなあとか。何を食べさせていいのかっていうのは割合、インターネットとかで調べていろいろ情報を取得したり、お友達同士で情報交換したりするんですけど、その時間のこととか、どうしたらいいんだろうと、悩んでいることもあるというところで、せっかくこれからの計画を作る時に、幼児のアンケートの母数がちょっと広がらないのかなあかっていうのが、工夫できたらいいと思いました。

あと、先ほどの、こうちし食育やるぞねっとに社協も参加させていただきましたが、コラボレーションみたいな話が出てたと思うので、何かこのアンケートの中から、こんな取り組みをしてもらいたいな、という意見があるとまたコラボが進むのではないかと思います。また、こうちし食育やるぞねっととこのアンケートが連動するのも面白いなあと思っています。

社協としては、人の興味・関心があるところから福祉を進めていきたいっていうのがあります。食ってすごく皆さんが関心があるところでもありますので、福祉分野の委員も中にもおりますし、一緒に何かできるようなアンケート結果が出ると、何か繋がるかなと思ったので、大いに期待をして、一緒にやらせてもらえた

らなと思っております。

<渡邊会長>

とても共感できるご意見いただきました。ぜひ、そういう取組もアンケートとからめて、やっていったらいいと思います。

<武田委員>

特に私の会が取り組んでいることの一つとして、食品ロスがあります。多くの会社が集まって食べるというときには、ホテルを借りて飲食をすることがありますが、最初の20分は、着座でご飯を食べてくださいとしています。どうしても、県民性っていうところもあると思いますが、すぐにお酒を持って、お酌をしに来る、まあ、今は返杯しないんですけど、それでも自分のグラスに注いでもらうという形であれば、大丈夫でしょうということで、今でもそういった部分が根強くあります。そうすると、自分のところに用意された食事を食べない。特に最近は大皿での配膳という形ではなくて、個人個人の食事が、コースみたいな形で運ばれてくるので、席を立てしまうと、食べ残しが非常に多くなるなあというふうに感じています。

ただ、食事を出すほうからすると持ち帰りに関しては、食中毒のリスク等があるため、非常に抵抗感も感じられるところがあるので、そのあたり、当会としても、取り組んでいかなければいけないのかなと思っています。

ここは個人的な感想で、一つこういうアンケートどうでしょうかというところですけども、私は妻が弁当を作ってくれて、それを事務所の方で食べているんですけど、例えば、前の日に作った食品の余ったものを詰めて持っていくと、当然食べる量を調節できますし、当日の体調によって、何を入れたりするのかコントロールできる、それ自体も食品ロスに繋がっていくのかなと思っています。ただ、やっぱり朝の時間は非常に貴重で、お弁当を作るっていうのも、すごく時間勝負みたいなのがあります。そうすると時短料理であったりとか、夕食としてこういうものを作っておくと、次の日弁当に持っていきやすいですよみたいなのところも、やっぱり今の時代にあったところなのかなあと考えてます。

特に今は、外食というよりは、どちらかと言えばテイクアウトして職場で食べたり、家で食べたりというところもあると思います。そういった時短料理関係も、アンケートであったりとか、そういうことがちょっと勉強できるような環境があると、また面白い視点なんじゃないかと。個人的な意見ですけども、ちょっと思ったところがありますので、お話をさせていただきました。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

何らかの行動している国民の割合っていうのをもうちょっと細分化したほうがいいかっていうことでしょうか。例えば、作り置きとか、最近、外食しても結構持って帰っていいですよっていう店も多いんですけども。コロナ禍でそういうところも変化していると思います。

事務局のほうはいかがでしょう。

<事務局>

今日、皆さんからご意見もいただきましたので、参考にさせていただきながら、引き続き高知らしい計画にしていきたいと考えております。ご意見、ありがとうございました。

<渡邊会長>

ぜひ、高知らしいアンケートになるようお願いいたします。

その他ございませんでしょうか。

そろそろ時間になりましたので、よろしいでしょうか。皆様、多くのご意見ありがとうございました。出されましたご意見をアンケート作成に活かさせていただきたいと思いますので、よろしくようお願いいたします。

本日、出されましたご意見以外にも、アンケートに盛り込んだらよいカテゴリー・内容等がありましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

- ② 第4次高知市食育推進計画策定について
資料（p33）を用いて事務局が説明。

〈渡邊会長〉

いよいよ、これから第4次高知市食育推進計画策定の準備が本格的に始まるということですので、どうか皆様、ご協力よろしくお願ひいたします。

本日の予定は以上で終了です。それでは、進行を事務局お返しいたします。

5 事務連絡

6 閉会